

卒業にあたって

生涯教育専攻 4回生 中 拓己

卒業論文と最後の試験が終わり、卒業予定者の発表があった。自分の学籍番号が載っていてやっと卒業するということを感じさせられた。無事に卒業できる安堵感と同時に四年間がとても早く過ぎていったなという思いが自分の中にわいてきた。この四年間はとても早く過ぎていったが、いろんな事がおこり、とても有意義だった。卒業式を目の前にして改めてこのように感じる事が出来る大学生活は本当に幸せだったと思う。

しかし、入学した時はこんな気持ちになれるなんて微塵も予想してなかった。今でも入学式の日の記憶は鮮明に残っている。生まれも育ちも奈良ではあるが天理教について全く理解のなかった事もあって宗教色の強さに戸惑いを覚えた。そして、クラスの少人数制と教室の雰囲気などがあって高校生活の延長かと、大学生活に対する憧れとの差が大きく落胆を覚えたものだった。今から思うとこの二点は自身の成長に大きく関わる要素だったとを感じるが当時は何もかもがショックでしかなかった。唯一、大学に行くことの救いは新しい人間関係の発掘と、生涯教育という勉強の内容が自分の興味のある分野だったからだけだろう。今では笑い話であるが本気で退学と転入を考えたことが何度かある。今思えば些細な事だが自分のイメージとの違いに自己嫌悪に近いものがあったのかもかもしれない。

生涯教育に興味があったと述べたが、それは大学に入学する前から大学生になったら必ずしようと感じていた社会教育施設でのボランティアが子供の頃からの夢の一つだったからだ。このボランティアは四年間しっかりと続けることが出来た。生涯教育の勉強を楽しく続けられたこともこのボランティアを四年間続けたからだろうと思う。このボランティア活動は大学生活で他にも意味のある活動になった。例えば、生涯教育専攻の合宿でのレクリエーションタイムだ。学科会や専攻の行事にあまり参加していなかった自分は、後輩と関わることがなかった。ボランティアでレクリエーションを習得していなければ、後輩に名前はおろか同じ専攻であることさえも気付かれぬまま卒業したのではないかと思う。

そして卒業論文にもボランティア活動は役にたった。テーマにボランティアを選んだが、ボランティア活動をしていなければ優柔不断である自分のことなのでテーマはおろか調査や文献の検索さえも行えず、卒業できてなかったと思うほどだ。今までボランティアが学

生生活に役立ったと言ってきたが、大学の勉強がボランティアに役立ったことも多かった。勉学という側面から社会教育のハード面や理論的な考えの理解に非常に有効だった。ボランティアと生涯教育専攻。この二つなくしては今の自分はいないだろう。

大学生活と今の自分といえば欠くことの出来ないものがもう一つある。それは大学進路部との関わりを中心とした就職活動だ。大学とボランティアにマンネリを感じ始めていた三回生の時、奈良県インターンシップを初めとして様々な社会人とかかわることが出来た。様々な人間と関わり、自分と違う価値観を認めどんな人にも尊敬を感じる。今では自分の大事な考え方の一つであるのだが、この考え方を習得できたのは自分のなかでとても大きいと感じている。これには就職活動を行ったと同時に大学という時間の中という要素もあったからだと思う。

大学生活を自分なりに振り返ってきたが、感じることは大学生という四年間がとても大事で特別ではないのかということである。大人でも子供でもない時間であり、社会的に自由が認められている時間だと思う。私はこの時間を、自分を見つめなおす時間に使った。ボランティアや大学、就職活動などを通じて自分は何をしたくて、何が大事でどんな人間になりたいのかを探っていたのだと思う。まさに自分探しである。

自分よがりの文章で今まで書き進めてきたが、卒業にあたって感じることは自分の大学生活の主演は当たり前だが自分であるということである。私は大学生活をボランティアに打ち込んだ、生涯教育の勉強に打ち込んだ。人によっては部活動、サークル、人間関係、アルバイトと色々だろう。私はたまたまボランティアと生涯教育であったただけだ。

大学生活は全てが自分次第、おそらく人生全てがそうなのだろうとは思いますが、はっきりそうだと言えるほど生きていない。しかし、大学生活を終えたからこそ大学時代については間違いなく自分しだいと言い切れる。どんな人がこの文章を目にするのかはよく知らないが、もしこれから大学生活がある人が読んでいるのであればしっかりと自分が主人公の学生生活を送ってほしいと思う。

最後に卒業にあたって、私が勉強やボランティアなど大学生活に関わった全ての人にこの場を借りて感謝を伝えたいと思います。今、私が大学生活を幸せに過ごすことが出来たのは、未熟な自分に目をあてて関わってくださった皆様のおかげです。またいつか会うことが必ずあると思います。その時は今よりも成長した姿を皆様にお見せできるように頑張りますので今後とも宜しくお願いします。そして、こんな未熟な文章に最後まで目を通してお付き合いくださった皆様ありがとうございました。